

### 第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

大和郡山市立片桐西小学校

教諭 中澤 哲也

#### 1. 単元名「片西マイスターになろう！～金魚を通して出会う地域の人々～」

#### 2. 単元の目標

○ゲストティーチャーや関係資料を通して大和郡山市の金魚について調べていく中で、地域づくりを支える様々な要素を理解することができる。

(知識及び技能)

○大和郡山市の金魚や、商店街に携わる人々との交流を通して、自分たちの地域の課題を改めて見つめ直し、友だちと協力して地域を良くしていくための取組を考えることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○自分たちの地域や学校にも金魚やそれらに関わる人々の思いを受け継いでいくために、仲間と協力し合い、発信しようとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

#### 3. 単元について

##### (1) 教材について

大和郡山市の金魚産業の始まりは、享保9年(1724)に柳澤吉里が甲斐国(山梨県)から郡山に移った際に金魚を持参したことがきっかけであると述べられている。明治時代の廃藩置県により郡山藩は廃藩となって仕事なくなった藩士が鑑賞用に金魚の養殖を商売として手掛けたことで、金魚産業が広まっていき、昭和48年には金魚養殖農家は約150戸までに及んだ。

現在、大和郡山市では「平和のシンボル金魚が泳ぐ城下町」というスローガンを掲げている。市の農林水産課では、「金魚マイスター制度」を設け、金魚に関する知識を深く身に付けた人に「金魚マイスター」という資格が与えられるようになった。マイスターになると、一般の方や小学生などを対象に、金魚についての講習会を開くことができる。また、近鉄郡山駅附近に位置する柳町商店街では、大和郡山市を訪れた人たちがもっと楽しんでもらえるように、2年前に商店街を「金魚ストリート」と名付け、各店舗に金魚の水槽を設けたり、金魚のスタンプラリーを実施したりと、工夫を凝らしている。

このように市のシンボルである「金魚」を入口に学習することで、よりよいまちを築いていこうとするヒト・モノ・コトに出会うことができると考える。

##### (2) 児童について

本学級で「大和郡山市と言えば？」と問うと、ほとんどの児童は金魚と答えるほど、大和郡山市では金魚が有名であることがわかる。市内で頻繁に行われている金魚すくい大会や、町のあちこちで見られる金魚をモチーフにした看板やオブジェなど、自分たちの生活経験の中で自然と身についたものであると考える。一方で、「なぜ金魚が有名になっていったのか」という金魚産業にまつわる歴史的な背景や、金魚がどのようなエサを好んで食べているかなどといった知識は少ない。学級内でも家で金魚を飼育したことがある児童は少ない。このように、大和郡山市で生活しているものの、金魚とふれあう経験が少ないことが読み取れる。金魚を「平和のシンボル」として掲げている大和郡山市に住む子どもたちにあらためて金魚の魅力や、それを守り伝えていこうとする人々の思いを感じてもらいた

い。

### (3) 指導について

本単元では、金魚について学習する中で、金魚に関わる様々な人と出会い、関わることでこれからの自分たちの生活について改めて見つめ直していくために次の3つに重点を置き指導する。

1つ目に、本物にふれさせることである。「市の金魚はなぜ有名なのか？」という問いに対して、実際に学年で金魚を飼育し、定期的に池の手入れをしたり、観察する時間を設けたりすることで、金魚を自分たちの生活の一部にしていく。また、課外活動で柳町商店街を訪れ、商店街のあちこちに設置されているユニークな水槽や、金魚が描かれたのぼりや看板を見ることで商店街の雰囲気を感じさせたい。

2つ目に、人の営みにふれる活動を取り入れる。金魚マイスターの資格をもつ加藤さんや、金魚ストリートを発案した北谷さんをゲストティーチャーとして学校に招き、直接話を聞いたりインタビューをしたりする機会を設ける。それぞれの活動は別々であるが、「誰かに言われて行動するのではなく、自分で考えて動いている」「自分のまちや文化にほこりをもっている」といった持続可能な社会を形成するために必要な価値観が共通して見出せるようにしたい。

3つ目に、ゲストティーチャーに会う前に、児童に疑問を持たせておくことである。単元を通して、児童が学びの中で疑問を感じたり、課題を乗り越えるのに困難に感じたりしたタイミングでゲストティーチャーの存在に気付かせることで、より児童の「聞きたい」「調べたい」といった意欲を引き出しながら学習を進めるようにしていく。

### (4) ESD との関連

#### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

相互性…よりよい町を築いていくためには、様々な人々がまちの課題を共有し関わり合うことが大切だということ。

多様性…大和郡山市には様々な種類の金魚がいるということ。

責任性…自分たちの校区をよりよくしていくためには、自ら気づき、考え、行動していくことが大切であるということ。

#### ・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

クリティカルシンキング

「なぜ金魚が有名なのか」を問い直すことで、自分たちのまちを支えている様々な人々のくふうや努力に気付くことができる。

コミュニケーション力

金魚マイスターや商店街の方といった学校外のゲストティーチャーと出会うことで、話の聞き方、質問の仕方、意見の伝え方など、人との豊かな関わり方を育む。

#### ・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化を尊重すること

自分たちのまちには伝統的な産業があり、それらはたくさんの人々の努力によって支えられ、受け継がれてきたことに気づき、誇りをもつ。

幸福感に敏感になる

自分たちのまちのよさを見出し、それらを持続するために行動することを通して、幸福な社会の在り方について考えようとする。

・達成が期待される SDGs

【目標 11：持続可能な都市】

【目標 17：実施手段】

4. 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①大和郡山市の金魚について、文献や課外活動を通して調べること、多面的に理解している。 ②金魚マイスターの制度や、金魚ストリートについてインタビューを通して調べること、自分たちのまちを良くしていこうとする活動があることを理解している。	①金魚について学んだことを、ワークシートやタブレットにまとめ、表現している。 ②自分たちのまちをさらによくしていくために活動されている人々の営みについて考えることで、自身の生活にいかそうとしている。	①大和郡山市の金魚について関心を持ちながら関連する人々にインタビューをしようとしている。 ②金魚のもつ様々な魅力を発信するにはどうすればいいか、仲間と協力しながら行動しようとしている。

5. 単元の展開（全 11 時間）

	主な学習活動	指導上の留意点	評価
みつめる	①大和郡山市の金魚について知っていることを出し合う。	・これまでの生活経験に基づいたことや、1 学期に社会科で学んだことを思い出させながら、今後の学習への関心を高めさせる。	【ウ①】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <b>学習問題</b> </div> なぜ、大和郡山市では金魚が有名なのだろうか？		
しらべる	②金魚の飼育にむけて、金魚について調べたいことを整理する。	・シンキングツールを使いながら、金魚について調べたいことと、それについての自分の予想を考えさせることで課題意識を持たせる。	
	③金魚マイスターの加藤さんにインタビューし、金魚について多面的に調べる。	・加藤さんをゲストティーチャーとして招き、実際に話を聞けるように場を設定する。 <b>主な質問内容</b> ○金魚の歴史について。 ○金魚の種類について。 ○金魚マイスターになったきっかけについて。	【ア①】 【イ①】 【ウ①】
	④金魚産業について体験的に調べる。	・課外活動で、柳町商店街を訪れるようにする。 ・事前に商店街のチェックポイントを示し、歩く際の視点を設けさせておく。	【ア①】 【ウ①】
	⑤柳町商店街の北谷さんにインタビューし、金魚ストリートが完成した経緯を調べる。	・北谷さんをゲストティーチャーとして招き、実際に話を聞けるように場を設定する。 <b>主な質問内容</b> ○金魚ストリートを発案したきっかけ。 ○金魚ストリートにした際に苦労したこと。 ○今後の金魚ストリートについて。	【ア②】 【イ①】 【ウ①】

ふかめる	⑥加藤さんと北谷さんの活動や自分のまちを思う気持ちについて共通点を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューを通してまとめたものを比較しながら、二人の共通点を見出せるようにする。</li> <li>・これまでの学習を通して学んだことや、感じたことを交流させる。</li> </ul>	【イ②】
ひろげる	⑦これまで学習してきたことを校内や保護者に伝える方法を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが学習してきた金魚や、それらに関わる人々の努力や思いを、他学年や保護者の人が知らないという現状を認識させ、自分たちが伝えていく担い手であることに気付かせる。</li> </ul>	【イ②】 【ウ②】
	⑧⑨校内や、保護者に向けての発信する準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発信は受け手が楽しめるように聞いたり・見たりできるものという視点で作業させる。</li> </ul>	【イ②】 【ウ②】
	⑩参観や、掲示物を通して、発信する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内に向けては3年生の廊下を金魚ストリートのように、金魚に関する様々な飾りやクイズなどを掲示し、楽しみながら学んでもらえるようにする。</li> <li>・保護者に向けては参観を通して、自分たちが1年間学んできたことをグループで発表する。</li> </ul>	【ウ②】
	⑪本単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他学年や保護者へのアンケートを基に、自分たちの行動の意義を可視化できるようにする。</li> </ul>	